

(5) スポーツを通じた交流の促進と地域の活性化

この分野では、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図るため、多様な規模、レベルのスポーツイベントの開催を支援するほか、東京オリ・パラ大会等の事前合宿誘致や自治体初となる野球に特化した「愛・野球博」事業の展開、県内プロスポーツ球団の認知度向上などに取り組んできました。

東京オリ・パラ大会を契機としたホストタウン交流等により9件の「事前合宿」を誘致し、相手国との友好関係を築き上げることができましたが、「スポーツイベント誘致」や「新規スポーツ大会開催」の件数は新型コロナの影響等により、数値目標に届いていないため、国体レガシーを活用した戦略的な誘致活動が必要となります。

また、地域振興やスポーツ振興に大きく寄与する「地域密着型プロスポーツ球団の観戦意向」は新型コロナの影響等により、数値目標との差が大きいため、更なるファン獲得や応援の盛り上げにつながる取組みが必要となります。

項目		実績 (令和4年度)	数値目標
スポーツイベントの誘致件数		年8件	年10件
うち、国際・全国大会の誘致件数		年1件	年3件
新規スポーツ大会の開催件数		年2件	年9件
日本スポーツマスターズの参加選手数		—	9,000人
県内への事前合宿誘致件数		9件	8件
地域密着型プロスポーツ球団の観戦意向	愛媛FC	46.1%	80%
	愛媛マンダリンパイレーツ	38.4%	70%
	愛媛オレンジバイキングス	18.9%	50%

(「地域密着型プロスポーツ球団の観戦意向」の実績(令和4年度)：「県民のスポーツに関する意識調査」結果から)

第3章 計画の目標、基本方針及び施策体系図

1 目 標 「スポーツ立県えひめ」の実現

スポーツは人々に夢や感動を与えるすばらしい文化の一つであり、心身の健全な発達や健康の保持・増進に役立つとともに、スポーツを通じた住民や地域間の交流活性化の促進が期待できるなど、明るく活力のある社会づくりの大きな原動力となります。

このため、県民誰もが生涯を通じ、その年齢や身体状況に応じてスポーツに親しめるような環境づくりや地域に根差したスポーツ振興方策を推進するとともに、全国をはじめ、オリンピックなど世界で活躍できるハイレベルな本県選手の輩出を目指して、競技スポーツの強化やスポーツ実施環境の整備に積極的取り組み、スポーツを通じて県民に勇気や希望、明日への活力を与えられる、全国に誇り得る「スポーツ立県えひめ」の実現を目指します。

2 基本方針

「スポーツ立県えひめ」の実現のため、4つの基本方針に基づき計画を推進します。

(1) 多様な主体に沿ったスポーツ機会の創出

- ・性別、年齢、障がいの有無等に関わらず、県民誰もがスポーツに親しめる環境整備に取り組みます。

(2) スポーツ実施環境の整備・充実

- ・県民誰もがスポーツに参画できる「場づくり」等の整備・充実に取り組みます。

「スポーツ立県えひめ」の実現

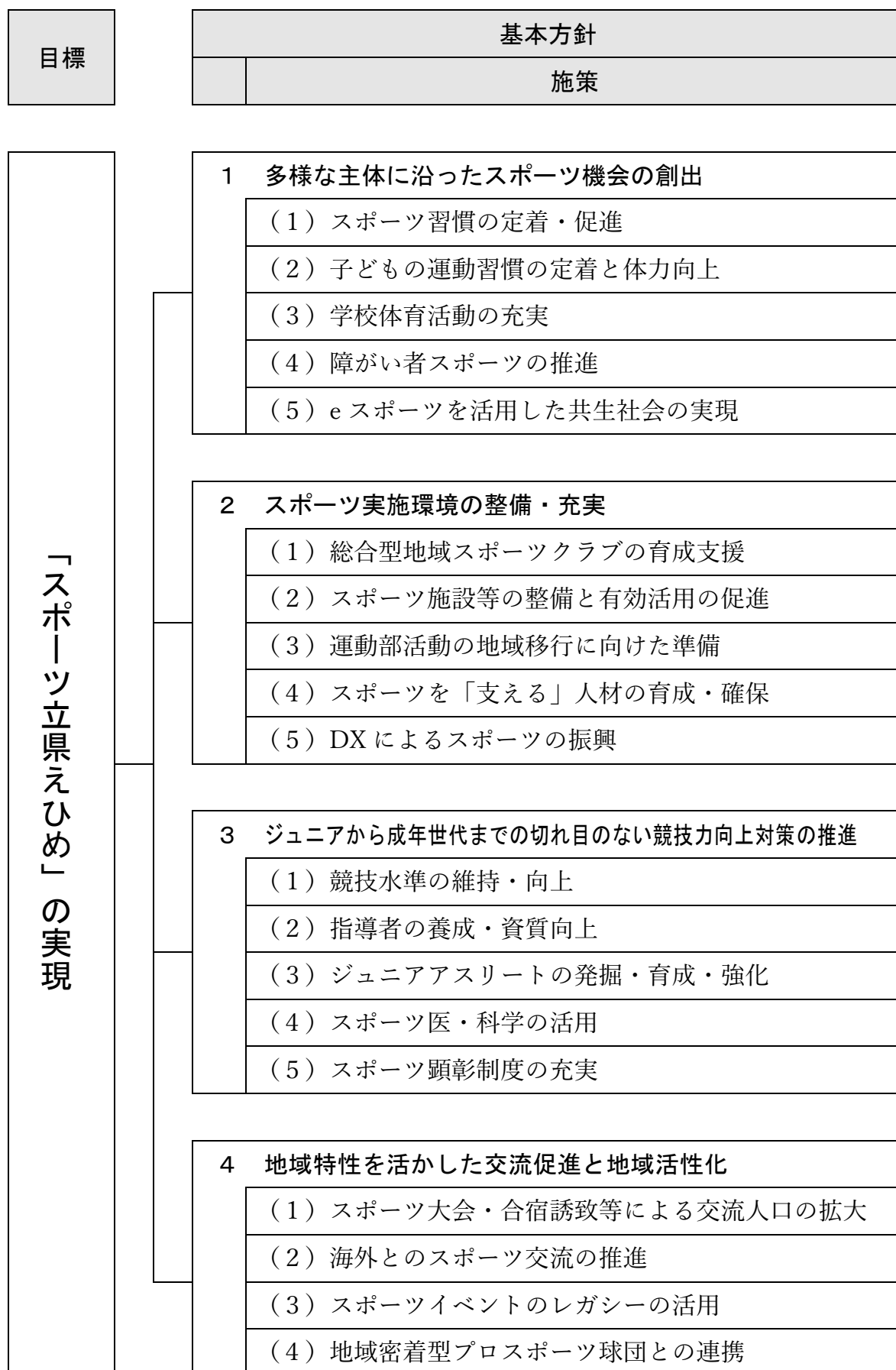
(3) ジュニアから成年世代までの切れ目のない競技力向上対策の推進

- ・全国や世界で活躍するスポーツ選手の発掘・育成・強化に取り組みます。

(4) 地域特性を活かした交流促進と地域活性化

- ・本県のスポーツ資源を活用し、スポーツを核としたまちづくりに取り組みます。

3 施策体系図



第4章 施策の展開

1 多様な主体に沿ったスポーツ機会の創出



(1) スポーツ習慣の定着・促進

【現状と課題】

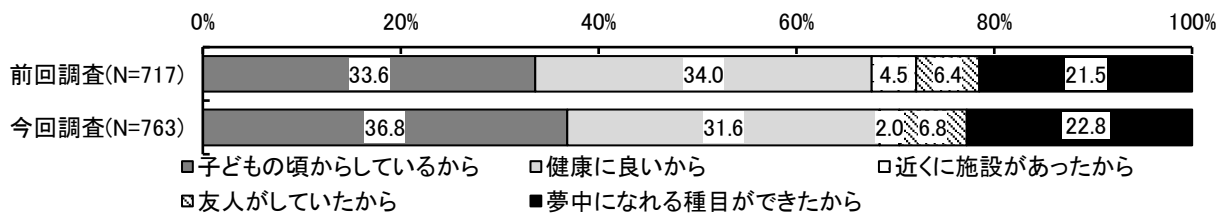
- 成人が週に1日以上スポーツを行う人の割合は56.3%で、平成29年度の調査結果に比べ増加しており、過去1年間にスポーツを全くしなかった人の割合は減少しています。また、年代別で見ると、20代から50代のスポーツを行う人の割合の大半が、他年代より低い状況となっています。
- スポーツをする主なきっかけとしては、「子どもの頃からしているから」「健康に良いから」などが挙げられます。
- スポーツをしない主な理由としては、「疲れていて体力的余裕がない」「面倒くさい」「高齢である」「時間がない」等、前回調査時とほぼ同様の傾向です。
- スポーツの機会について、外出控えやスポーツ施設の利用制限等の理由により、機会が減ったとする方が多く、実施しているスポーツ種目の上位がウォーキングや体操であることや、実施場所として道路や遊歩道、自宅が増加していることから、新型コロナの拡大がスポーツの内容や環境に大きな影響を与えていることがうかがえます。
- スポーツは生活習慣病の予防や社会生活機能の維持・増進に有効であり、健康寿命の延伸につながります。新型コロナ等の影響により県民の生活スタイルが大きく変化していく中、スマートフォンアプリなど日常に浸透している機器等も効果的に活用しながら、県民の身体活動量を増やすとともに、気軽にスポーツを楽しむことのできる環境づくりを進める必要があります。

<運動・スポーツを行う人の割合（成人）>

単位(%) 上段:前回調査 下段:今回調査	全体	20代		30代		40代		50代		60代		70代以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
週1日以上	39.1	41.3	33.3	39.5	26.4	20.0	33.8	34.6	42.7	40.3	48.6	51.4	41.0
	56.3	56.3	21.2	61.3	37.8	42.2	37.0	48.5	50.7	62.0	66.3	71.3	69.2
1年間で行っていない	27.5	20.7	14.8	15.8	34.0	21.8	33.8	32.0	22.5	22.1	31.8	18.9	40.0
	12.3	0.0	6.1	9.7	16.2	10.9	12.3	16.2	12.3	8.9	14.3	7.4	18.5

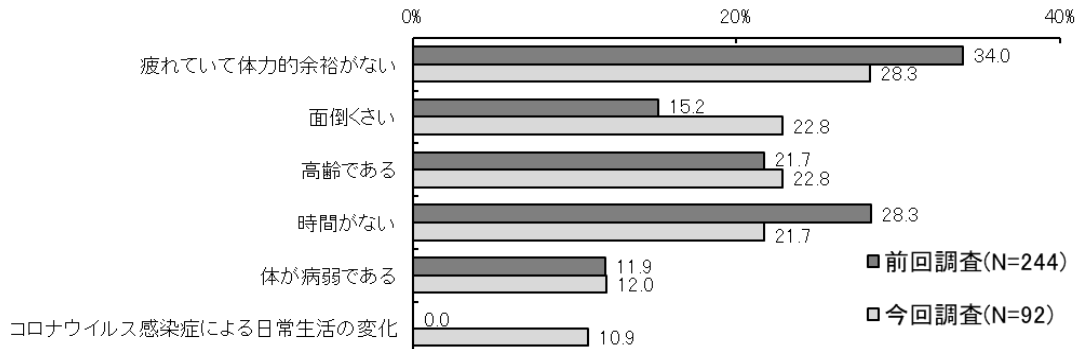
(令和4年度県民のスポーツに関する意識調査)

<運動・スポーツに対する関心のきっかけ（成人）>



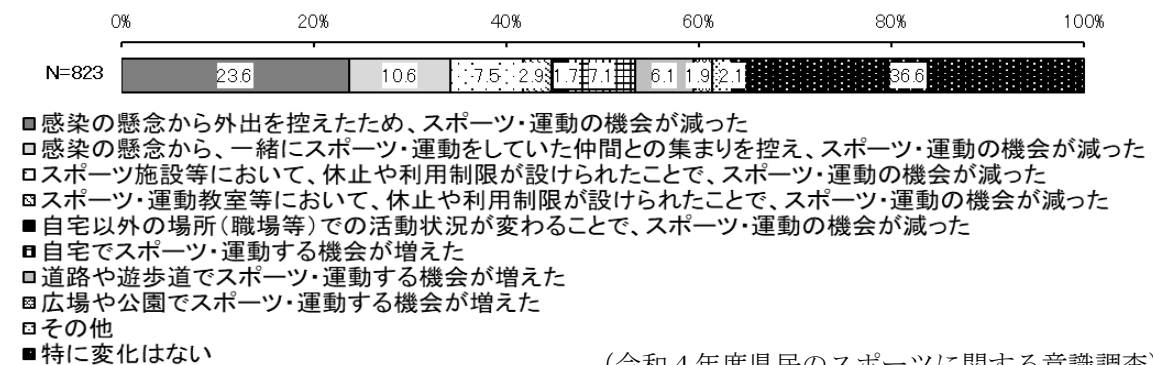
(令和4年度県民のスポーツに関する意識調査)

<運動・スポーツの非実施の主な理由（成人）>



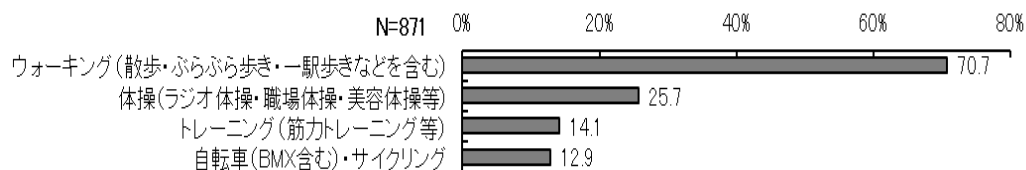
(令和4年度県民のスポーツに関する意識調査)

<新型コロナによる運動・スポーツへの影響と変化（成人）>



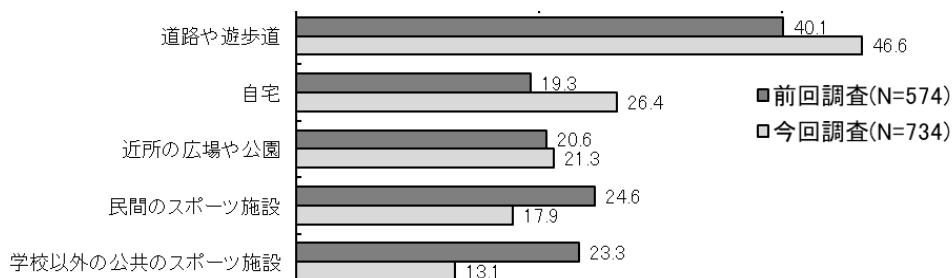
(令和4年度県民のスポーツに関する意識調査)

<実施した運動・スポーツの主な種目（成人）>



(令和4年度県民のスポーツに関する意識調査)

<運動・スポーツの主な実施場所（成人）>



(令和4年度県民スポーツに関する意識調査)

【具体的取組み】

- スポーツ実施率の低い層・無関心層をターゲットにスポーツ実施に向けた環境整備や機運の醸成に取り組むとともに、将来にわたって継続できるよう幼児期からスポーツに触れる機会を提供します。また、県民誰もが気軽に実施できるウォーキング等を通じてスポーツを「する」機会の拡充を図ります。
- 子どもからお年寄りまで気軽に参加することができる「愛媛スポーツ・レクリエーション祭」を、幅広い参加が得られるような工夫をしながら開催し、県民が運動やスポーツに親しむことができるよう、レクリエーション等の機会の提供に努めます。
- 身体活動・運動の意義や重要性が広く県民に認知され、実践されるよう周知するとともに、健康づくりのための運動ノウハウを啓発します。
- 運動のみならず、家庭や職場など生活におけるあらゆる場面でスマートフォンなど日常に浸透した機器を有効に活用し、県民同士の交流等も図りながら、県民の身体活動の活発化や運動習慣の定着化に取り組みます。

【数値目標】

項目	令和4年度	目標値 (令和9年度)
週1日以上スポーツを行う成人の割合	56.3%	70%
1年に1度以上スポーツを実施する成人の割合	87.7%	100%
愛媛スポーツ・レクリエーション祭の参加者数	5,350人(令和3年度)	8,000人

項目		令和4年度	目標値 (令和9年度)	
日常生活における歩数	20～64歳	男性	8,500歩	
		令和4年度未確定		8,500歩
	65歳以上			7,000歩
		女性		6,500歩



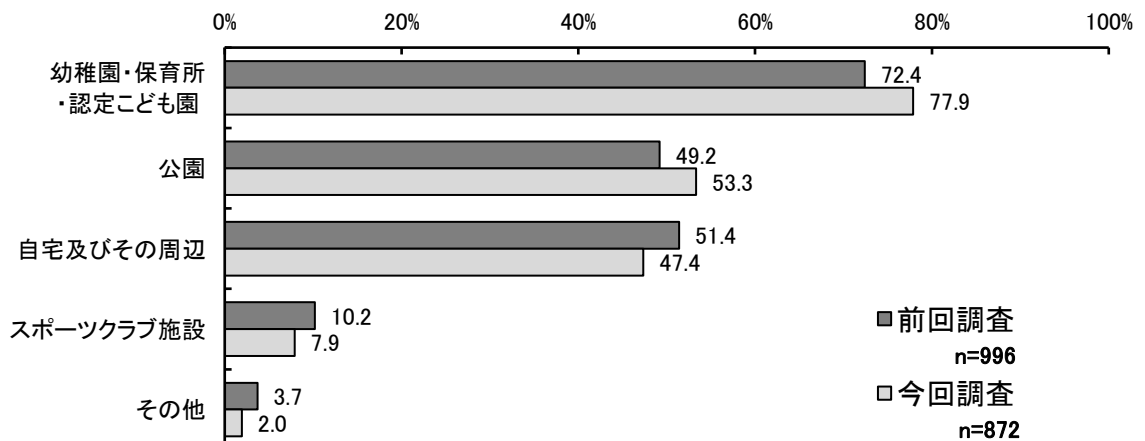
愛媛スポーツ・レクリエーション祭

(2) 子どもの運動習慣の定着と体力向上

【現状と課題】

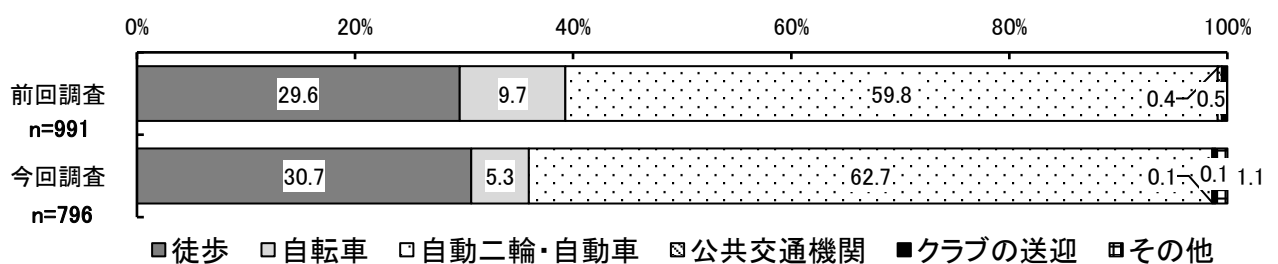
- 運動神経は、幼児期から小学生の時期に急激に発達すると言われています。この時期に遊びを通して体を動かすことにより、様々な動きやバランス感覚を身に付けることが重要です。
- 保護者が幼児を外で遊ばせている場所は、主に幼稚園・保育所・認定こども園であり、移動手段は、自動二輪・自動車が約6割、徒歩が約3割となっています。
- 幼児の保護者は、「忙しく一緒について行くことができない」「近くに遊ばせる場所がない」など、時間や空間の欠如とともに、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大」による不安が課題と考えています。
- 生涯スポーツの推進の面では、成人がスポーツをする主なきっかけに「子どもの頃からしているから」が挙げられることから、幼児期にスポーツを始めるきっかけを科学的に示し、興味を持たせる必要があります。

<運動（スポーツ）・外遊びの実施場所（幼児保護者）>



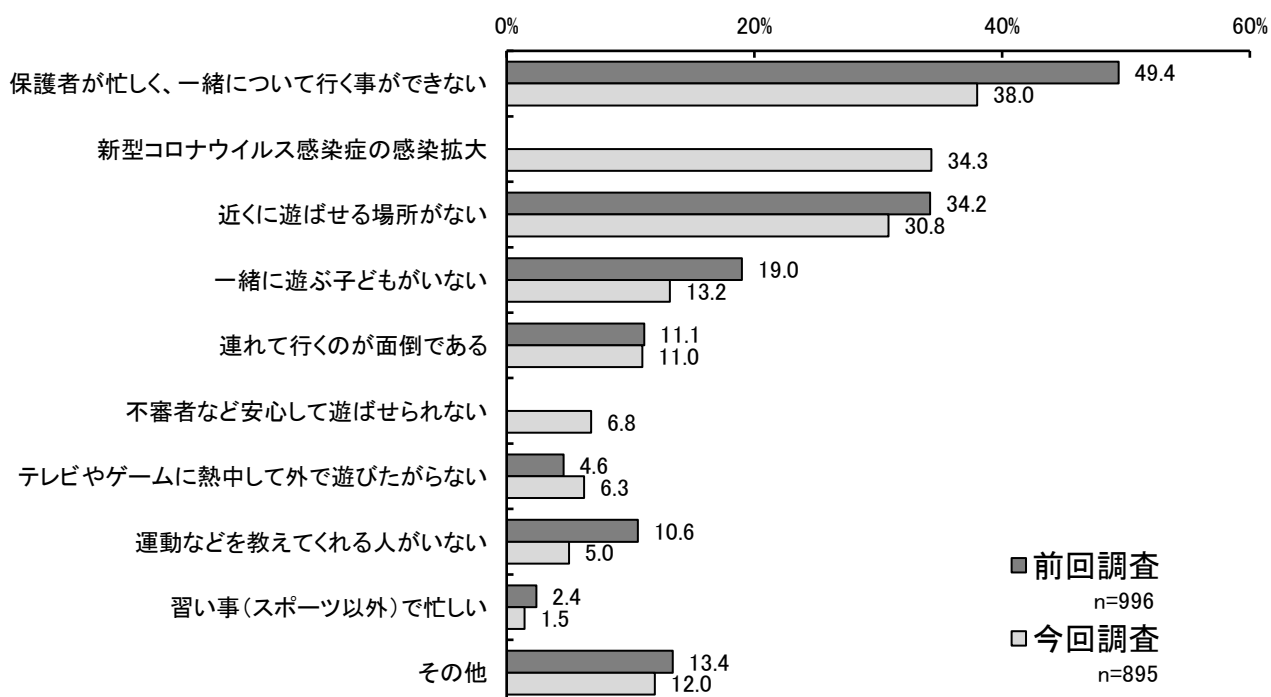
(令和4年度県民のスポーツに関する意識調査)

<運動（スポーツ）・外遊びの実施場所までの移動手段（幼児保護者）>



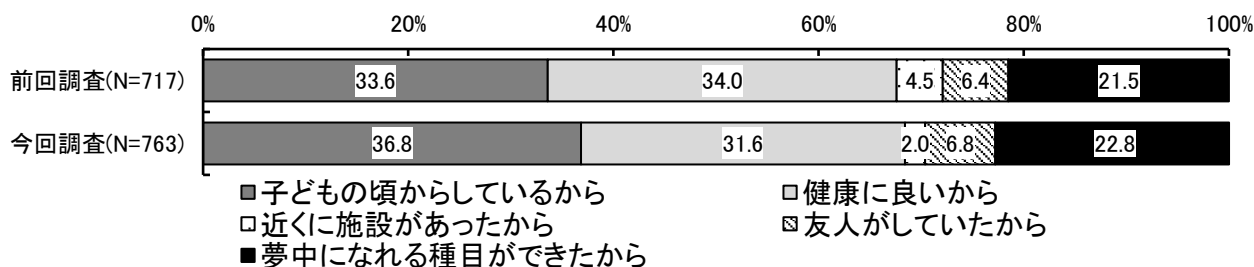
(令和4年度県民のスポーツに関する意識調査)

<運動（スポーツ）・外遊びを実施する上での課題（幼児保護者）>



(令和4年度県民のスポーツに関する意識調査)

<運動・スポーツに対する関心のきっかけ（成人）>



(令和4年度県民のスポーツに関する意識調査)

【具体的取組み】

- 子どもが、気軽に友だちや保護者等と体を動かす楽しさを体験できるよう、運動（スポーツ）・外遊びの場やスポーツ及びレクリエーションのイベント情報を積極的に提供するほか、幼児にとっての運動や外遊びの意義・重要性の啓発を行うとともに、保護者等が子どもと一緒にスポーツを行う時間が持てる環境づくりを進めます。
- 幼児から小学生をターゲットに、自分に合ったスポーツを見つけ出す機会を提供し、スポーツへの意欲向上や習慣化へつなげていきます。

(3) 学校体育活動の充実

【現状と課題】

- 新型コロナの感染拡大防止の影響もあって、子どもの運動の機会が減少しており、児童・生徒の体力は低下傾向で、昭和 60 年頃と比較すると低い状況にあり、改善する必要があります。
- 児童・生徒が週 1 日以上スポーツを行う割合は 80.3%で、平成 29 年度の調査結果と同程度となっているものの、高校生女子は「全くしない」が 1 割を超えています。

<愛媛県における昭和60年頃と現在との体力の比較>

		昭和 59 年	昭和 62 年	令和 3 年	格差
握力	小学 5 年 (男)	<u>18.24kg</u>	18.14kg	15.57kg	-2.67kg
	小学 5 年 (女)	<u>16.72kg</u>	16.54kg	15.68kg	-1.04kg
	中学 2 年 (男)	<u>31.30kg</u>	31.04kg	28.21kg	-3.09kg
	中学 2 年 (女)	<u>25.42kg</u>	25.11kg	23.36kg	-2.06kg
持久走	中学 2 年 (男) [1,500m]	370.48 秒	<u>366.81 秒</u>	398.89 秒	-32.08 秒
	中学 2 年 (女) [1,000m]	<u>265.75 秒</u>	279.17 秒	291.04 秒	-25.29 秒
50m走	小学 5 年 (男)	<u>9.01 秒</u>	9.03 秒	9.52 秒	-0.51 秒
	小学 5 年 (女)	<u>9.29 秒</u>	9.36 秒	9.65 秒	-0.36 秒
	中学 2 年 (男)	8.01 秒	<u>7.89 秒</u>	8.03 秒	-0.14 秒
	中学 2 年 (女)	<u>8.69 秒</u>	8.74 秒	8.89 秒	-0.20 秒
ボール投	小学 5 年 (男)	<u>29.80m</u>	28.39m	20.03m	-9.77m
	小学 5 年 (女)	<u>16.64m</u>	16.14m	13.28m	-3.36m
	中学 2 年 (男)	<u>22.15m</u>	21.93m	19.67m	-2.48m
	中学 2 年 (女)	14.65m	<u>14.99m</u>	12.41m	-2.58m

- ※ 昭和 59・62 年度 体力・運動能力・生活実態調査 (愛媛県教育委員会)
- ※ 令和 3 年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査 (スポーツ庁)
- ※ 下線部は、昭和 59 年と昭和 62 年を比較して記録の優れている方を示す。
- ※ 格差は、下線部の記録と令和 3 年の記録を比べたもの。(持久走・50m走については増減が逆となる)
- ※ ボール投については、小学 5 年がソフトボール、中学 2 年がハンドボール。

<スポーツを行う割合 (児童・生徒) > ※体育の授業を除く

単位 (%) 上段: 前回調査 下段: 今回調査	全体	小学生		中学生		高校生	
		男	女	男	女	男	女
週 1 日以上	78.3	87.4	74.1	88.6	75.6	82.0	62.4
	80.3	85.5	81.2	90.7	80.4	83.5	63.2
全くしない	5.8	3.0	5.1	2.9	6.1	5.5	11.8
	6.0	4.4	3.3	1.2	4.7	6.8	14.1

(令和 4 年度県民スポーツに関する意識調査)

【具体的取組み】

- 児童生徒の体力は、人間が発達・成長し、創造的な活動を行っていくために必要不可欠なものですが、体力向上のためには、まず児童・生徒がスポーツをすることが好きになることが必要です。こうしたことから、次の点に重点をおいて取り組めます。
 - ・ 学校における体育の授業の質の向上
学習指導要領を踏まえ、武道・ダンスの指導力向上等、体育実技に係る教員の資質向上を図る各種研修会等を実施するとともに、小学校の体育専科教員配置校を拠点とした、系統的かつ先進的な取組みを進めるなど、質の高い授業を行うための支援を行います。
 - ・ 体育の授業以外の時間を活用した運動する「場」の提供
休み時間や昼休み等を活用し、例えば、ホームページ上で子どもたちが楽しみながら、学級単位で体力の向上を図る「えひめ子どもスポーツITスタジアム」の取組みを充実させるなど、運動が苦手な児童生徒も仲間と共に運動に取り組む場が充実するよう支援します。
 - ・ 各種関係団体による研修会の充実
各種関係団体では、県下の教職員の体育・保健体育学習に対する興味・関心を高めるとともに、指導力の向上を図ることを目的に、実技研究や授業研究、有識者による講演会等を実施します。
 - ・ 地域のスポーツ団体等と連携した取組みの推進
学校における取組みに加え、総合型地域スポーツクラブをはじめ、地域のスポーツ団体や県内のプロスポーツ球団等と連携し、児童生徒がスポーツに触れる機会をより多く提供し、児童生徒がスポーツを好きになるようなきっかけをつくります。
 - ・ 家庭における運動習慣の意識付け
適切な生活習慣を身に付ける一環として、適切な食習慣や学習習慣と運動習慣とを関連付け、望ましい運動習慣を形成する重要性を保護者等に啓発します。
 - ・ 新体力テスト等の結果を活用した体力向上の取組み
客観的に示された新体力テスト等のデータを基に「体力アップ推進計画」を作成して、各学校の取組みの成果と課題を把握、検証し、課題解決に向けた取組みの見直しを行うPDCA（Plan-Do-Check-Action：計画・実行・検証・反映）サイクルを実践することで、児童生徒の状況に応じた合理的かつ効率的な質の高い取組みを行います。

【数値目標】

項目	令和4年度	目標値 (令和9年度)
週3日以上スポーツを行う小中高生の割合	56.5%	70.0%
週1日以上スポーツを行う小中高生の割合	80.3%	90.0%